

宇宙戦略基金事業の経過報告

国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構

2026年9月28日

宇宙戦略基金

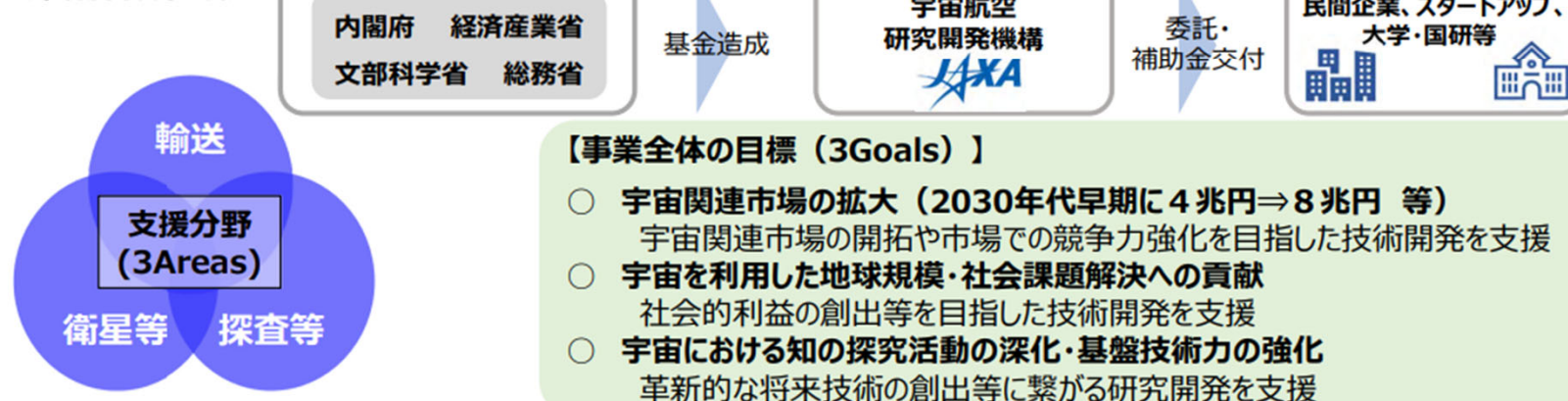
- 我が国として民間企業・大学等が複数年度にわたって大胆に研究開発に取り組めるよう、新たな基金を創設し、民間企業・大学等による先端技術開発、技術実証、商業化を強力に支援。
- 速やかに総額 1 兆円規模の支援を行うことを目指すとともに、民間投資や宇宙実証の加速、地域やスタートアップ等の国際競争力につながる特色ある技術の獲得・活用や産業の集積等の観点からスタートアップを含む民間企業や大学等の技術開発への支援を強化・加速する。
- 加えて、政府によるアンカーテナンシーを確保し、民間企業の事業展開の好循環を実現。

令和5年度補正予算3,000億円
(文科省1,500億円、経産省1,260億円、総務省240億円)
令和6年度補正予算3,000億円
(文科省1,550億円、経産省1,000億円、総務省450億円)
令和7年度補正予算2,000億円
(文科省950億円、経産省740億円、総務省310億円)

「『強い経済』を実現する総合経済対策」(令和7年11月21日 閣議決定)

宇宙戦略基金による速やかな総額 1 兆円規模の支援を通じて、宇宙空間における輸送、衛星及び探査の分野において先端技術開発、技術実証及び商業化を支援する。

<本制度のスキーム>

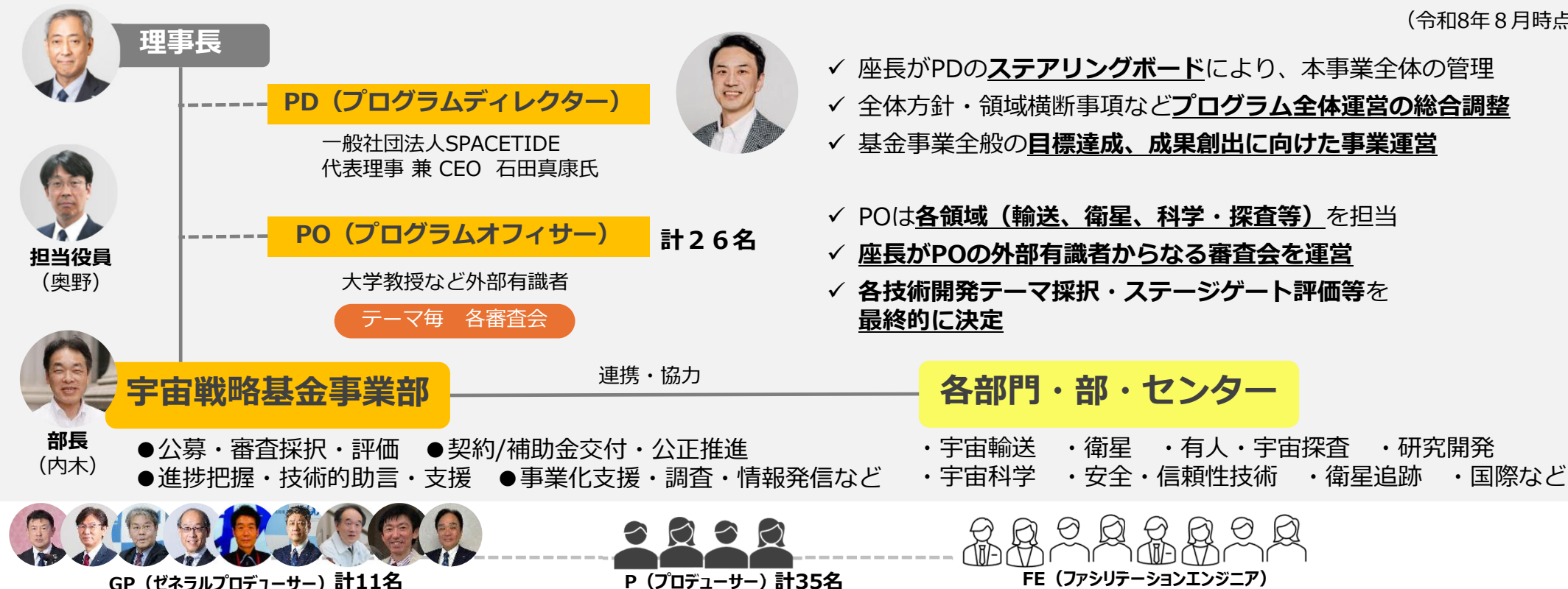


JAXAにおける宇宙戦略基金事業の運営体制



- 宇宙戦略基金基本方針を踏まえ、理事長からの委嘱による外部有識者のPD（プログラムディレクター）・PO（プログラムオフィサー）体制を構築し、審査・評価等を実施。
- 公募・採択、技術開発マネジメント等を担当する「宇宙戦略基金事業部」の発足（2024年7月）以降、事務局の増員等により運営体制の強化を順次進めているところ。

（令和8年8月時点）



○ 宇宙戦略基金全体の進捗状況

- 第1期22テーマ、第2期24テーマについては総計167件を採択し、事業開始済み。特に第1期については技術開発面・事業面の双方において具体的な進捗・成果が出始めている。第3期については全19テーマの公募発出を完了、順次審査を開始。

○ ステージゲート評価の進捗

- 各技術開発課題の中止・見直し・加速・連携の判断を含むステージゲート評価を厳正に実施し、これまでに7課題に対する評価を完了。今後予定しているステージゲート評価について着実かつ厳正に実施していく。

○ 更なる成果創出に向けた取組

- 基金事業の成果最大化に向け、JAXAによる技術開発マネジメントの柔軟化、採択事業者の経営層との面談、海外展開支援等による取組を実施。

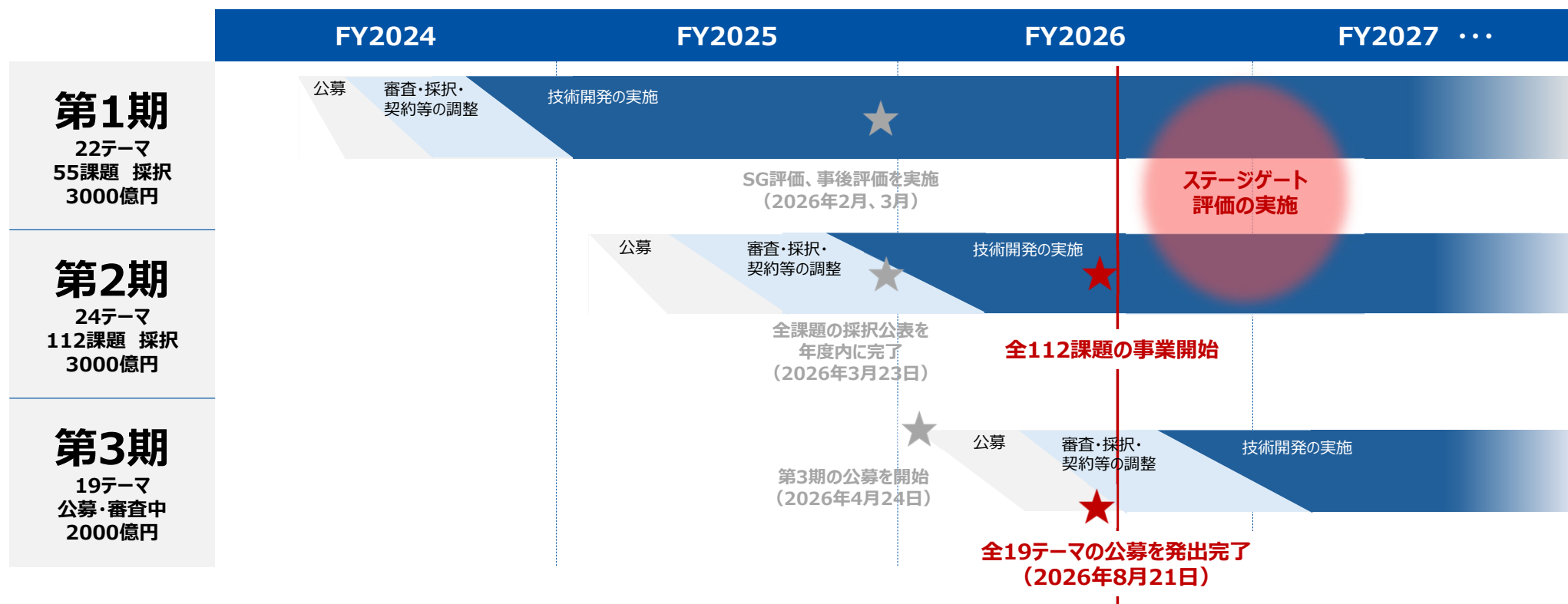
1. 宇宙戦略基金全体の進捗状況
2. ステージゲート評価の進捗
3. 更なる成果創出に向けた取組



宇宙戦略基金事業全体の進捗状況（主な報告内容）

赤字部は、前回報告（令和8年5月21日 第123回宇宙政策委員会）からの主な進捗分）

- 2024年度に第1期公募を開始して以降、全体として順調に進捗。
- 昨年度末には第2期の採択公表をすべて完了し、契約・交付手続きに係る調整を経て、全112事業について事業開始。
- 本年4月より、2月に策定された実施方針の内容を踏まえて、第3期の公募を開始。
- 採択後、技術開発を開始した事業者に対しては、適宜にその進捗を確認しつつ、ステージゲート評価等も開始したところ。

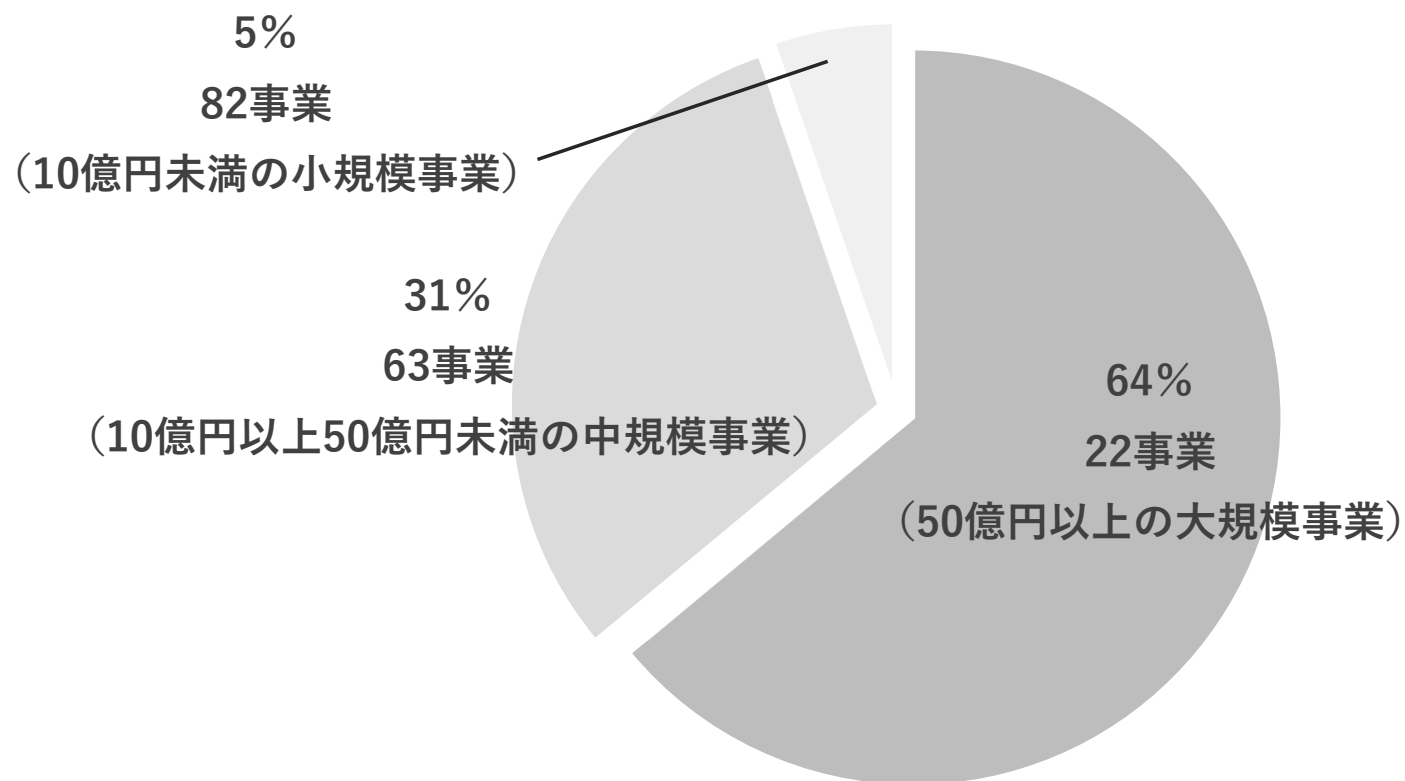


宇宙戦略基金事業で採択済みの167事業（第1～2期）の概観

- 採択済みの167事業のうち、大規模事業※22件（全体の13%）に総額 約5000億円の約2/3（64%）を割り当て。

※大規模事業：ここでは支援上限額50億円以上の事業を指す

総額 約5000億円（円全体）に対する167事業の規模別分布



第一期事業の主な進捗・成果

- 各領域で以下を含む具体的な進捗・成果が生まれてきている。（下線部は前回報告からの更新箇所）

衛星等

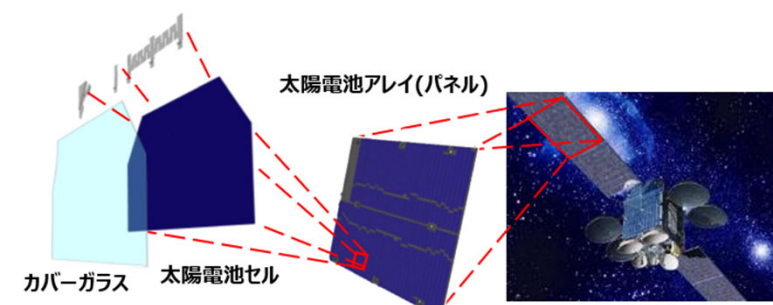
- 【商業衛星コンステレーション構築加速化】QPS研究所、Synspectiveが、25年12月に**防衛省の衛星コンステレーション整備・運営等事業者に選定**。今後、補助事業で開発・製造される衛星を順次、サービスイン予定。26年5～9月にはSynspectiveが基金で支援された衛星4機の打ち上げに成功。26年8月にはQPS研究所が衛星1機の打ち上げに成功。
- 【衛星サプライチェーン構築のための衛星部品・コンポーネントの開発・実証】三菱電機とPXPが、宇宙を想定した高耐久な条件におけるペロブスカイト太陽電池セルの世界最高レベル（26年5月時点）の変換効率を達成。CIGSセルの試作にも成功。
- 【衛星データ利用システム海外実証（フィジビリティスタディ）】パシフィックコンサルタンツが、**プロトタイププラットフォームで一連の解析を実施**（衛星画像の取得・解析、被害算定、治水施設特定、氾濫流解析、被災要因特定など）。**完成版を2026年12月を目標に開発中**。出口戦略として、顧客ニーズ分析によるツール改善や運用体制構築を検討。**海外パートナー獲得に向けた営業・広報活動を実施**。
- 【高出力レーザの宇宙適用による革新的衛星ライダー技術】京都大学が、**衛星搭載型高度計ライダー向けの小型な半導体レーザ光源「フォトリソニック結晶レーザ（PCSEL）」の開発において、電力変換効率30%級を実現。また、宇宙での排熱密度を目指した放熱構造設計・試作を完了。**



© Synspective



©QPS研究所



©三菱電機



© パシフィックコンサルタンツ

第一期事業の主な進捗・成果

輸送

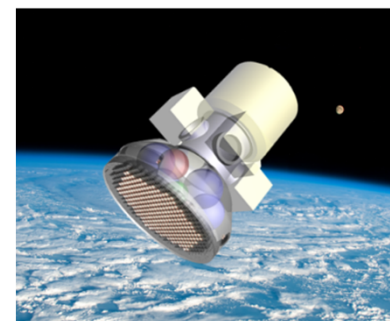
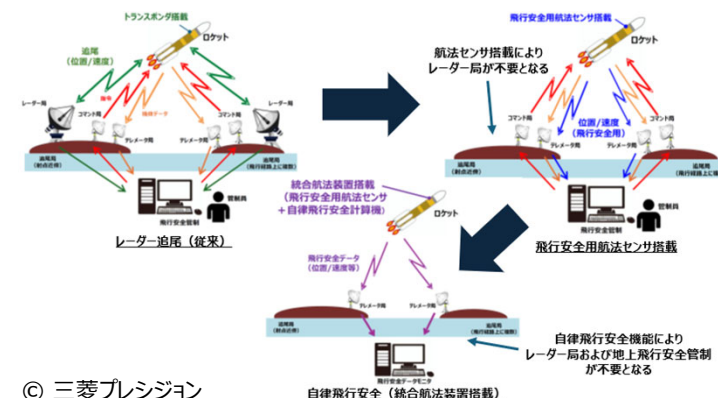
- 【宇宙輸送システムの統合航法装置の開発】三菱プレジジョンが様々なロケットに適用できる**小型・低コスト・高性能な自律飛行安全用統合航法装置のBBM（試作モデル）製作を完了**し、評価を開始。地上検証装置の機体シミュレータのハードウェア製造も完了し、機体シミュレータに搭載するソフトウェアを設計中。ロケット打上げ事業者のロケットへの実証搭載機会を獲得。

探査等

- 【低軌道自律飛行型モジュールシステム技術】日本低軌道社中が、**日本モジュールシステム定義審査を完了**し、基本設計を開始。同社は技術開発テーマ【国際競争力と自立・自在性を有する物資補給システムに係る技術】においても、**HTV-XCシステム定義審査を完了**し、基本設計を開始。技術開発の加速に向けた**三菱重工、三菱電機からの出資完了**。
- 【再生型燃料電池システム】トヨタ自動車が、**再生型燃料電池システム概念設計終了・基本設計を開始**し、エネルギー循環試験実施のため**国内評価場建設に着手**（27年度第稼働予定）。
- 【月測位システム技術】**アークエッジ・スペースが、26年7月に100kg級の月測位実証衛星の製造拠点「新木場ラボ」を整備し、実証衛星の製造フェーズに移行。**

共通

- 【SX研究開発拠点】名古屋大学が25年9月、高圧デトネーションエンジン※と燃焼室が複数個あるクラスター化デトネーションエンジンの**燃焼実験を行い将来の実証実験の実現の目途が付いた**。論文が米国航空宇宙学会のロケットの歴史100編として**選定** ※爆発を連続回転させ推進力にする高効率エンジン
- 【SX研究開発拠点】東京大学が、25年10月に「**宇宙資源連携研究機構（Center for Space Resources and Innovation）**」を設置。
- 【SX研究開発拠点】会津大学（代表機関：立命館）が、月面帯電ダスティ環境を地上で再現する**大型試験装置「箱庭チャンバー」の一般供用を28年4月に開始予定。26年4月より温度・電界制御等の試験運用。**



第3期（令和7年度補正予算分）の公募・審査の状況

赤枠は、前回報告（令和8年5月21日
第123回宇宙政策委員会）からの進捗分）

- これまでの運営実績を踏まえ、第3期は4月24日より段階的に公募を開始。（第1期は7月上旬、第2期は5月中旬から公募開始）
- **全19テーマの公募発出を完了し（8月21日）、それぞれのテーマにおいて提案を受領後、審査会による審査を経て採択決定・公表を進め、今年度中に全テーマの審査・採択完了することを目標に運営していく。**

公募開始日	第3期技術開発テーマ名（全19テーマ）
4月24日	【総】衛星通信利活用を拡大するための汎用地上アンテナ及びユースケースの開発・実証【審査中】 【経】宇宙実証機会の拡大に資する衛星を活用した軌道上実証の低コスト・高頻度化技術の開発実証【審査中】 【文】衛星応用に向けた光・量子センシング技術【審査中】
5月15日	【文】LEO拠点リブースト技術【審査中】 【経】民間ロケット打上げ実証加速化（STAND）【審査中】
6月12日	【文】月・小惑星等の宇宙資源活用に向けた技術【審査中】 【経】宇宙交通管理を見据えた自律性確保に資する事業化加速【審査中】 【文】打上げシステムへの洋上活用技術【審査中】
6月26日	【総】次世代衛星通信を実現する革新的衛星搭載アンテナの開発・実証【審査中】 【総】月・地球間通信インフラの実現に必要な地球局の開発・実証【審査中】 【文】LEO利用促進技術【審査中】
7月10日	【文】宇宙輸送機の大気圏再突入における熱防護技術【審査中】 【経】デジタル技術を前提とした衛星開発・製造プロセスの刷新及び機能高度化の技術開発・実証【審査中】
7月24日	【総】衛星を取り巻くセキュリティ技術（電波の妨害・傍受対処技術）の開発・実証【公募中】 【文】SX技術シーズ統合・人材育成拠点（SX-CRANE）【審査中】
8月7日	【経】ロケット飛行運用の効率化・高機能化【公募中】 【文】物理AI等による宇宙システムの革新技術【公募中】 【総】Q/V帯等通信機器の開発・実証【公募中】
8月21日	【文】SX基盤領域発展研究（SX-ARK）【公募中】

1. 宇宙戦略基金全体の進捗状況
2. ステージゲート評価の進捗
3. 更なる成果創出に向けた取組

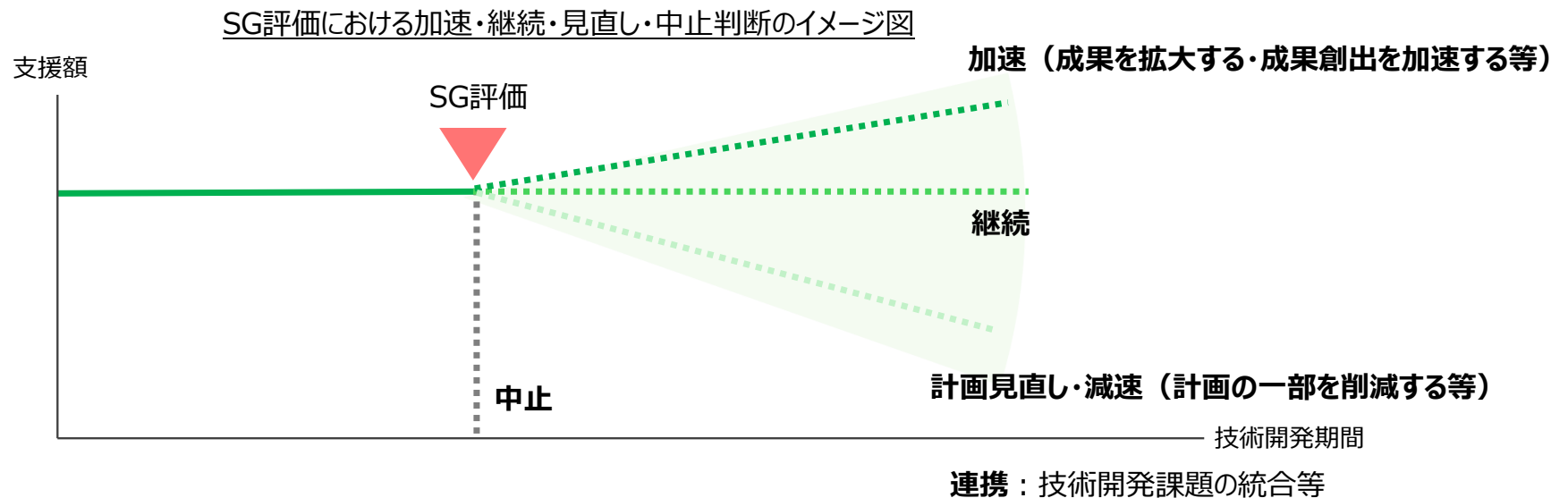


ステージゲート評価の概要

ステージゲート評価とは

宇宙戦略基金 基本方針より（６－１．運営体制）（６－２．ステージゲート評価等）

- PO を座長とする審査会において、各技術開発テーマの採択・ステージゲート評価等を行う他、実施内容の中止・見直し・加速・連携を判断するなどについての最終的な決定を行う。
- JAXAは、本事業の目標を達成するため、国内外の市場や技術の動向を見つつ、技術開発テーマや技術開発課題に応じたマイルストンの設定や、ステージゲート評価を通じた進捗確認や社会実装可能性等の評価を行い、必要に応じて当該技術開発課題の見直し（予算配分の変更、中止を含む）等を行う。



⇒ステージゲート評価では、技術開発の観点に加えて、事業化にむけた戦略や体制の評価も実施

ステージゲート評価等の進捗状況

赤枠は、前回報告（令和8年5月21日
第123回宇宙政策委員会）からの進捗分）

- 事業開始から1年程度が経過した第1期の一部課題については、採択時の要処置事項への対応状況や初年度の進捗状況を確認することを主目的としたステージゲート評価を実施し、いずれも継続が妥当と評価された。今後、第2期分も含め、加速、継続、見直し、中止の判断を伴うステージゲート評価を順次実施。

ステージゲート評価を実施済の技術開発課題（7課題）

技術開発テーマ名				技術開発課題名	実施機関名	SG評価結果 (評価の実施時期)
第1期	衛星等	文科省	高精度衛星編隊飛行技術	超多数機の精密制御が可能な編隊飛行技術の構築	インターステラテクノロジズ株式会社	継続 (2026年2月)
第1期	衛星等	経産省	衛星サプライチェーン構築のための部品・コンポーネント開発・実証	国産太陽電池セル・カバーガラスおよび搭載アレイの開発	三菱電機株式会社	継続 (2026年2月)
				光通信衛星コンステレーション構築及びシステム実証に係る技術開発	日本電気株式会社	継続 (2026年3月)
第1期	衛星等	経産省		多目的衛星コンステレーション群の構築（多様な波長・周波数情報を拡張するセンサを搭載した衛星コンステレーションの構築）	株式会社アークエッジ・スペース	継続 (2026年3月)
				小型SAR衛星の量産・打上げと段階的性能向上	株式会社Synspective	継続 (2026年3月)
				小型SAR 衛星の量産加速化及び競争優位性確立に向けた機能強化	株式会社QPS研究所	継続 (2026年3月)
第2期	衛星等	総務省	衛星光通信の実装を見据えた衛星バス及び光通信端末の開発及び製造に関するフィージビリティスタディ	光通信端末事業の商材国産化の実現と世界シェア獲得に向けた調査分析	日本電気株式会社	継続 (2026年6月)

その他、第1期・総務省分の技術開発テーマ「月-地球間通信システム開発・実証(FS)」で実施した2課題（KDDI株式会社、福井工業大学）については、約1年間の事業期間を終了。基本方針等に基づき、事後評価を実施（2026年3月）。

ステージゲート評価の今後の予定（2026年度）

- 今年度中に26課題に対するステージゲート評価を実施予定。

技術開発テーマ名				実施機関名
第1期	輸送	文科省	宇宙輸送機の革新的な軽量・高性能化及びコスト低減技術	(株)ニコン,三菱重工業(株),清水建設(株)
第1期	輸送	文科省	将来輸送に向けた地上系基盤技術	日本郵船(株),SPACE COTAN(株)
第1期	輸送	経産省	宇宙輸送システムの統合航法装置の開発	三菱プレシジョン(株)
第1期	衛星等	経産省	商業衛星コンステレーション構築加速化	(株)Synspective,(株)QPS研究所,日本電気(株),(株)アークエッジ・スペース
第1期	衛星等	経産省	衛星サプライチェーン構築のための部品・コンポーネント開発・実証	三菱電機(株),NECスペーステクノロジー(株),シャープエネルギーソリューション(株),ナノブリッジ・セミコンダクター(株)
第1期	衛星等	文科省	高精度衛星編隊飛行技術	東京大学,名古屋大学
第1期	衛星等	文科省	高出力レーザの宇宙適用による革新的衛星ライダー技術	京都大学
第1期	探査等	文科省	国際競争力と自立・自在性を有する物資補給システムに係る技術	(株)IHIエアロスペース
第1期	探査等	文科省	月測位システム技術	(株)アークエッジ・スペース
第1期	探査等	文科省	低軌道汎用実験システム技術	Space BD(株)
第2期	輸送	経産省	射場における高頻度打上げに資する汎用設備のあり方についてのフィージビリティスタディ	(株)IHIエアロスペース
第2期	輸送	経産省	高頻度打上げに資するロケット部品・コンポーネント等の開発	(株)SUIHO SPACE INNOVATIONS
第2期	輸送	経産省	高頻度打上げに資するロケット製造プロセスの刷新	北斗(株)
第2期	衛星等	総務省	衛星光通信の導入・活用拡大に向けた端末間相互接続技術等の開発	(株)ワープスペース
第2期	衛星等	総務省	衛星光通信の実装を見据えた衛星バス及び光通信端末の開発及び製造に関するフィージビリティスタディ	三菱電機(株),国立研究開発法人情報通信研究機構

※1:SG評価対象外の課題についても、適宜中間評価を行うなど、技術開発の進捗状況等を把握し、状況変化等に応じて、適時適切に中止・見直し・加速等を判断することもありうる。

※2:FSや調査研究等、実施期間が短くSG評価・中間評価の対象外の課題については、POIによる課題管理を通じて技術開発マネジメントを実施。

1. 宇宙戦略基金全体の進捗状況
2. ステージゲート評価の進捗
3. 更なる成果創出に向けた取組



更なる成果創出に向けた取組 ～JAXA技術開発マネジメントの柔軟化～



○経緯

- これまで、基金事業との独立性を強く意識し、JAXA技術開発マネジメントは、技術的助言・支援等に限定した上で、適切に実施してきた。一方、基金事業者等から、成果最大化に向けて、JAXA専門家の知見の更なる活用に関して要望が出された。
- JAXAのリソース不足等を踏まえた上で、技術開発マネジメントの柔軟な在り方に向けて提言が出され、基本方針へ反映された。

・ ステアリングボードから政府に対する提言（令和8年1月21日 宇宙政策委員会）

② 基金事業の成果最大化に向けて果たすべきJAXAの役割

【今後に向けた提言】基金事業の成果最大化に向けて、JAXAが有する研究開発力をより活かすことができるよう、各技術開発テーマの目標や性質等に応じて、JAXA全体の人員やリソース不足も踏まえて、柔軟に対応できる技術開発マネジメントの在り方や、JAXAによるアンカーテナンシーに向けた事業者との意思疎通の円滑化を検討すべきではないか。

・ 基本方針の改定（令和8年2月25日改定）

基本方針（抄） 6. 技術開発マネジメント 6-1. 運営体制

JAXA は、技術開発マネジメントの実施において、基金事業の成果最大化に向けて、本基金事業の趣旨・制度に十分留意しつつ、各技術開発テーマの目的や性質等に応じて、JAXA 全体の人員やリソースの状況も鑑みながら柔軟な対応を進める。また、進捗状況に応じて、JAXA による将来的な調達・協力が想定される場合には、JAXA は採択事業者との意思疎通を適宜進める。

○基本方針の改定を踏まえた今後の取組

- 民間企業・大学等が主体となる宇宙戦略基金事業の原則を引き続き維持しつつ、適切な管理の下、JAXAが既に有する民間支援スキーム(実費ベースでの作業請負、無償の伴走支援等)を基金事業者が活用できるように、運用を見直すことで、成果最大化を実現する。

更なる成果創出に向けた取組 ～石田PDと経営層との面談～

- 第1期の採択事業者のうち、近い将来の事業化を見据えた技術開発テーマについて、市場展開に向けた経営層のコミットメントを確認することを目的に、実施機関の経営層と石田PDによる意見交換を昨年度実施した。
- 第2期についても、比較的支援金額が大きな技術開発テーマの採択事業者を中心に面談を実施中。

第2期

面談企業/代表者		第2期技術開発テーマ
株式会社Space Compass	小松Co-CEO	衛星光通信を活用したデータ中継サービスの実現に向けた研究開発・実証
株式会社 SpaceBlast	堀口CEO	軌道上データセンター構築技術

※上記の他、複数社に対して面談を実施予定

第1期（2025年度実施済）

面談企業/代表者		第1期技術開発テーマ
株式会社日本低軌道社中	山本 代表取締役社長	低軌道自律飛行型モジュールシステム技術、国際競争力と自立・自在性を有する物資補給システムに係る技術
株式会社アークエッジ・スペース	福代 代表取締役CEO	月測位システム技術、商業衛星コンステレーション構築加速化
株式会社Marble Visions	中村 代表取締役	高分解能・高頻度な光学衛星観測システム
SPACE COTAN株式会社	小田切 代表取締役社長兼 執行役員CEO	将来輸送に向けた地上系基盤技術
株式会社Synspective	新井 代表取締役CEO	商業衛星コンステレーション構築加速化
株式会社QPS研究所	大西 代表取締役社長CEO	商業衛星コンステレーション構築加速化
トヨタ自動車株式会社	井上 先進技術開発カンパニー プレジデント	再生型燃料電池システム
日本電気株式会社	永野 執行役 Corporate EVP	衛星コンステレーション構築に必要な通信技術(光ルータ)の実装支援、商業衛星コンステレーション構築加速化

更なる成果創出に向けた取組 ～実施機関の海外展開の促進等のための国際的活動～



- 採択事業者による海外への事業展開を促進するための取組を実施中。

英語版PRシート公表（7月）

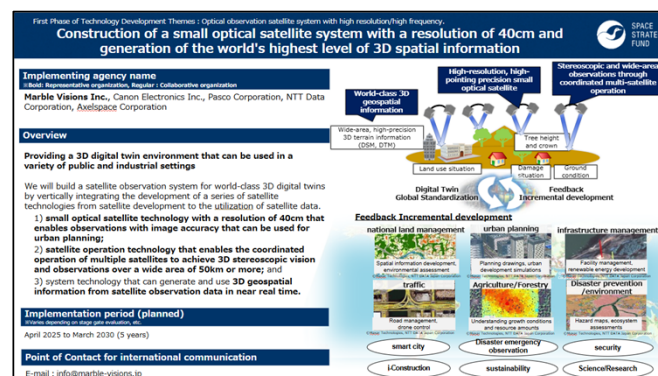
- 第一期～第二期の採択事業者について英語版PRシートを作成しHPに順次掲載。
- 海外からも注目を得ている。

宇宙戦略基金HP「採択結果・事業一覧」をクリック



PRシート集（PDF）

英語版PRシートの例



宇宙ビジネス海外展開支援合同説明会（8月）

- 8月に海外展開支援に係る基金事業(※)に採択された6社及び経済産業省、JETRO、JICA、JAXAによる海外展開支援に関する合同説明会を開催。
- 関心が高く、約200名が参加。[当日の様子をレポート化](#)。
- 各機関による支援メニューの[資料はこちら](#)。

※衛星データ利用システム実装加速化事業(B)海外における衛星データ利用システム等の開発・実証、社会実装基盤整備

Co-fund関係の取組

- 7月にシンガポール国家宇宙庁（NSAS）とCo-funded事業推進枠組み合意のレター交換を実施。
- Co-fundに関する[最新状況はこちら](#)。

SPACE TIDE期間における国際連携（7月）

- 7月のSPACETIDEのサイドイベントとして、採択事業者と海外企業との1on1ビジネスマッチングの場の提供や、採択事業者向けの英国企業ピッチとネットワーキングイベントを開催。

シンガポール国家宇宙庁（NSAS）
2026年7月合意



今後の予定

- 4月より開始した第3期の公募・審査・採択に係る取組を着実に進めるとともに、第1期、第2期にて採択した事業者に対する技術開発マネジメントを適切に進めていく。

○ 公募・審査・採択の着実な実施

- ・ 第3期については、公募を締め切ったテーマから順次、審査会による審査を経て採択決定・公表を進め、今年度中に全テーマの審査・採択を完了することを目標に運営していく。

○ SG評価の着実かつ厳正な実施

- ・ 今年度に予定されている26課題のステージゲート評価を着実かつ厳正に実施するとともに、基金事業としての成果最大化に向けた取組を進める。

參考資料

第2期技術開発テーマの審査体制

領域	PO	技術開発テーマ名	支援規模	支援件数	支援期間 (最長)	支援の 形態
輸送  領域統括: 神武 直彦	姫野 武洋 (東京大学)	【経】高頻度打上に資するロケット部品・コンポーネント等の開発	195億円	10件程度	4年	補助
		【経】高頻度打上に資するロケット製造プロセスの刷新	245億円	10件程度	4年	補助
	小笠原 宏 (東京理科大学)	【文】有人宇宙輸送システムにおける安全確保の基盤技術	100億円	(A)1~2件程度 (B)1~2件程度	3年	補助
		【経】射場における高頻度打上げに資する汎用設備のあり方についてのフィージビリティスタディ	5億円	1件程度	2年	委託
衛星  領域統括: 木村 真一	木村 真一 (東京理科大学)	【文】次世代地球観測衛星に向けた観測機能高度化技術	100億円	(A) 2件程度 (B) 1件程度	7年	補助
		【経】革新的衛星ミッション技術実証支援	120億円	3件程度	5年	補助
	富田 章久 (NICT)	【総】衛星光通信を活用したデータ中継サービスの実現に向けた研究開発・実証	235億円	1件	5年	補助
		【文】地球環境衛星データ利用の加速に向けた先端技術	40億円	3件程度	6年	補助
	尾崎 典明 (TXアンブレラパートナーズ)	【経】衛星データ利用システム実装加速化事業	176億円	(A)30件程度 (B)5件程度	5年	補助
				(C)1~3件程度	5年	委託
	安藤 真 (東京科学大学)	【総】国際競争力ある通信ペイロードに関する技術の開発・実証	58億円	1件程度	5年	補助
	末松 憲治 (東北大学)	【総】衛星通信と地上ネットワークの統合運用の実現に向けた周波数共用技術等の開発・実証	110億円	1件	5年	補助
		【総】衛星光通信の実装を見据えた衛星バス及び光通信端末の開発及び製造に関するフィージビリティスタディ	4億円	2件程度	2年	委託
	門脇 直人 (NICT)	【総】衛星光通信の導入・活用拡大に向けた端末間相互接続技術等の開発	30億円	(A)1件程度 (B)1件程度	3年	補助
				(A)1~2件程度 (B)1~2件程度	4年	補助
探査  領域統括: 白坂 成功	白坂 成功 (慶應義塾大学)	【文】月極域における高精度着陸技術	200億円	1件程度	5年	補助
		【文】軌道上データセンター構築技術	135億円	1件程度	6年	補助
	中須賀 真一 (東京大学)	【文】高頻度物資回収システム技術	25億円	1件程度	3年	補助
		【文】船外利用効率化技術	65億円	1件程度	6年	補助
	高橋 忠幸 (東京大学)	【文】月面インフラ構築に資する要素技術	80億円	3~5件程度	5年	補助
	角南 篤 (笹川平和財団)	【文】宇宙転用・新産業シーズ創出拠点「SX-CRANE」	110億円	5件程度	8年	委託
共通  領域統括: 角南 篤	木村 真一 (東京理科大学)	【経】宇宙機の環境試験の課題解決	230億円	(A)2件程度 (B)4件程度	5年	補助/委託
	満田 和久 (国立天文台)	【文】SX中核領域発展研究「SX-ARK」	100億円	20~40件程度	4年	補助

第3期技術開発テーマの審査体制

領域	PO	担当省庁	技術開発テーマ名	支援規模	支援件数	支援期間 (最長)	支援の 形態
輸送 領域統括: 神武 直彦	村山 英晶 (東京大学)	文部科学省	打上げシステムへの洋上活用技術	90億円	1件程度	6年	補助
	小笠原 宏 (東京理科大学)	文部科学省	宇宙輸送機の大気圏再突入における熱防護技術	95億円	4件程度	5年	補助
	新谷 美保子 (TMI総合法律事務所)	経済産業省	民間ロケット打上げ実証加速化 (STAND)	240億円	2件程度	5年	補助
	近藤 晋司 (JAMSS)	経済産業省	ロケット飛行運用の効率化・高機能化	50億円	A: 1件程度 B: 2件程度	5年 5年	委託 補助
衛星 領域統括: 木村 真一	末松 憲治 (東北大学)	総務省	衛星通信利活用を拡大するための汎用地上アンテナ及びユースケースの開発・実証	70億円	2~3件程度	5年	補助
	安藤 真 (東京科学大学)	総務省	衛星を取り巻くセキュリティ技術 (電波の妨害・傍受対処技術) の開発・実証	25億円	1~2件程度	3年	補助
	梅比良 正弘 (茨城大学)	総務省	Q/V帯等通信機器の開発・実証	93億円	1~2件程度	5年	補助
		総務省	次世代衛星通信を実現する革新的衛星搭載アンテナの開発・実証	63億円	1~2件程度	5年	補助
	上田 正仁 (東京大学)	文部科学省	衛星応用に向けた光・量子センシング技術	150億円	A: 2件程度 B: 2件程度	6年 6年	補助 補助
	久保田 孝 (明治大学)	文部科学省	物理AI等による宇宙システムの革新技術	80億円	A: 1~4件程度 B: 0~1件程度	6年 6年	補助 補助
	張替 正敏 (NEDO)	経済産業省	宇宙交通管理を見据えた自律性確保に資する事業化加速	150億円	A: 2件程度 B: 1件程度 C: 1件程度	5年 5年 5年	補助 補助 委託
	坂下 哲也 (JIPDEC)	経済産業省	デジタル技術を前提とした衛星開発・製造プロセスの刷新及び機能高度化の技術開発・実証	230億円	A: 1件程度 B: 2件程度	5年 5年	委託 補助
探査 領域統括: 白坂 成功	今井 良一 (元JAXA)	経済産業省	宇宙実証機会の拡大に資する衛星を活用した軌道上実証の低コスト・高頻度化技術の開発実証	48億円	1件程度	5年	補助
	白坂 成功 (慶応義塾大学)	総務省	月・地球間通信インフラの実現に必要な地球局の開発・実証	50億円	1件	4年	補助
	田中 哲夫 (RESTEC)	文部科学省	LEO利用促進技術	112億円	A: 3~5件程度 B: 1件程度	5年 5年	補助 補助
	中須賀 真一 (立命館大学)	文部科学省	LEO拠点リブースト技術	60億円	1件程度	5年	補助
共通 領域統括: 角南 篤	白坂 成功 (慶応義塾大学)	文部科学省	月・小惑星等の宇宙資源活用に向けた技術	95億円	A: 1~2件程度 B: 1件程度	6年 4年	補助 補助
	角南 篤 (笹川平和財団)	文部科学省	SX技術シーズ統合・人材育成拠点 (SX-CRANE)	110億円	5件程度	5年	委託
	満田 和久 (国立天文台)	文部科学省	SX基盤領域発展研究 (SX-ARK)	100億円	20~40件程度	4年	補助

宇宙戦略基金事業（第1期）の執行状況

- 第一期公募テーマの採択結果に伴う支援件数や支援予定金額、契約締結・交付決定等の状況は下表のとおり。
- 今後も、ホームページ等を通じて、随時、支出状況等を公表していく予定。

【前提】

- ① 外部有識者からなる審査会から示された採択にあたっての指摘事項等を踏まえ、**採択事業者が技術開発計画書の作り込み**を実施し、**POの承認**を受けた後、**委託契約締結（委託事業）／補助金交付決定（補助事業）を開始**。
- ② 基金事業としての特性・利点を最大限に活かし、事業者に対する予見可能性を確保する一方、事業化や成果最大化に向けた技術開発マネジメントを有効に実施するとともに、執行管理を適切に行う観点から、当初の委託契約（委託事業）／補助金交付（補助事業）の期間は、**最初のステージゲート評価又は中間評価が終了する日の属する年度の末日まで**。
- ③ 採択事業者に対する支払方法は、事業終了後の確定検査結果に基づき行う**精算払い**、採択事業者から支出計画に基づく請求を受けて行う**概算払い**。

（令和8年9月14日時点）

担当省	技術開発テーマ数	採択数	支援上限額の総計 ^{注1}	契約締結・交付決定済額の総計 ^{注2}
総務省	4テーマ	5件	225億円	112億円（5件）
文部科学省	13テーマ	24件	1,439億円	989億円（24件）
経済産業省	5テーマ	26件	1,138億円	540億円（26件）
合計	22テーマ	55件	2,802億円	1,642億円（55件）

注1 支援上限額は、予見可能性確保の観点から、採択時に、事業者に対して実施期間全体を通して支援する上限額を通知したものであり、ステージゲート評価等により金額が変動する場合がある。なお、3,000億との差額については、事務費の他、技術開発動向・リスクの変動等にも機動的に対応しつつ、研究加速等を行うために必要な経費であり、これらについては、ステアリングボードでの議論を経て、速やかに執行を進めていく予定。

注2 契約締結・交付決定済額は、最初のステージゲート評価又は中間評価が終了する日の属する年度の末日までの金額。ステージゲート評価又は中間評価等により契約変更・変更交付決定が行われた場合はその金額を反映。カッコ内は契約締結・交付決定済の件数。（四捨五入の関係で合計が合わない場合がある）

宇宙戦略基金事業（第2期）の執行状況

- 第二期公募テーマの採択結果に伴う支援件数や支援予定金額、契約締結・交付決定等の状況は下表のとおり。
- 厳正な審査の結果、大幅に採択予定数に満たなかった技術開発テーマ等については、再公募や追加公募等を実施。

○ 再公募及び追加公募を実施中の技術開発テーマ

- スマート射場の実施に向けた基盤システム技術（文部科学省措置分）【7月24日より再公募】
- 衛星データ利用システム実装加速化事業（経済産業省措置分）
 - （A）衛星データ利用システムの開発・実証【9月4日より追加公募】
- 高頻度打上げに資するロケット部品・コンポーネント等の開発（経済産業省措置分）【9月18日より追加公募】

（令和8年9月28日時点）

担当省	技術開発テーマ数	採択数	支援上限額の総計 ^{注1}	契約締結・交付決定済額の総計 ^{注3}
総務省	5テーマ	7件	444億円	293億円（7件）
文部科学省	13テーマ	63件	1,343億円 ^{注2}	563億円（59件）
経済産業省	6テーマ	42件	719億円	456億円（32件）
合計	24テーマ	112件	2,506億円	1,313億円（98件）

注1 支援上限額は、予見可能性確保の観点から、採択時に、事業者に対して実施期間全体を通して支援する上限額を通知したものであり、ステージゲート評価等により金額が変動する場合がある。なお、3,000億との差額については、再公募・追加公募分や事務費の他、技術開発動向・リスクの変動等にも機動的に対応しつつ、研究加速等を行うために必要な経費であり、これらについては、ステアリングボードでの議論を経て、速やかに執行を進めていく予定。

注2 審査の結果、支援期間及び支援上限額をSG評価時点までとした技術開発テーマを含み、仮にSG評価の結果、提案時点の金額全体の支援を認めた場合の最大値の金額を含む。

注3 契約締結・交付決定済額は、最初のステージゲート評価又は中間評価が終了する日の属する年度の末日までの金額。カッコ内は契約締結・交付決定済の件数。（四捨五入の関係で合計が合わない場合がある）

宇宙戦略基金事業で採択済みの167事業（第1～2期）の概観

- 大規模事業※の多くは宇宙システム系。また、宇宙システムを支えるコア技術・サプライチェーン系は裾野が広く採択件数が多い。

※大規模事業：ここでは支援上限額50億円以上の事業を指す

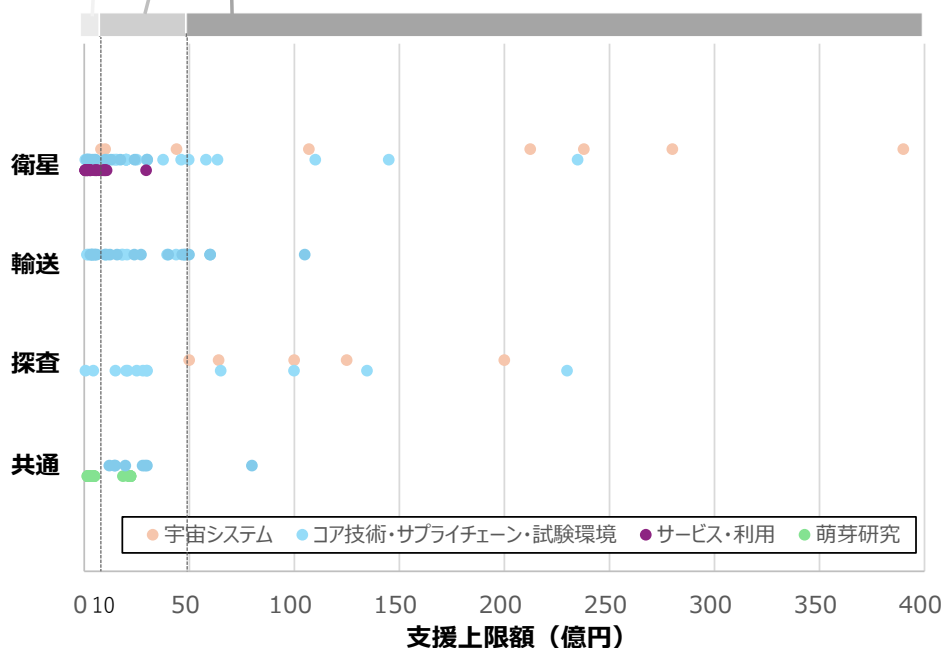
■ 167事業の支援上限額の分布

<前項の円グラフとの対応>

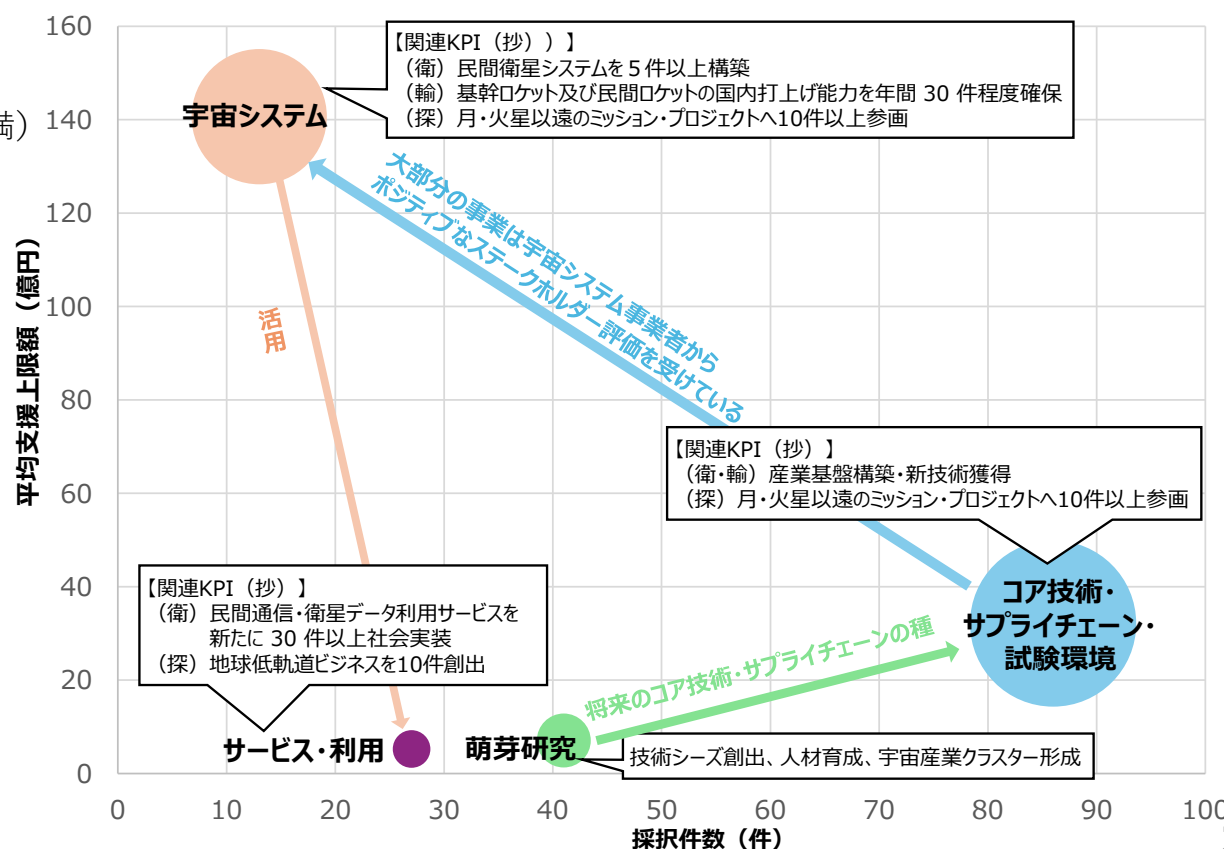
● 総額の5%に対応する82事業（10億円未満）

● 総額の31%に対応する63事業（10億円以上50億円未満）

● 総額の64%に対応する22事業（50億円以上）



■ 採択件数と平均支援上限額の関係（バブルサイズは総額の大きさ）



共通環境整備費による追加支援

- **共通環境整備費**は、実施方針（文部科学省計上分、令和6年4月26日策定）において、**技術開発の加速や成果の最大化、宇宙分野の一層の裾野拡大**に向けて、特に戦略的に整備すべき研究開発環境に対する**追加的な支援**として措置されたもの（支援総額：50億円）。
- これを受け、第1期の文部科学省テーマで採択された実施機関を対象に、共通環境整備費を活用した研究設備等の整備に係る提案募集を昨年度実施。応募された提案に対してステアリングボードにおける審議を行い、下記のとおり**追加支援を決定**した（2026年7月）。

共通環境整備費による追加支援の内容		既存事業の内容
代表機関名	提案名	テーマ名（技術開発課題名）
株式会社ニコン (研究代表者：長坂 博之)	金属3D積層による大型部品の造形プロセス開発の加速	宇宙輸送機の革新的な軽量・高性能化及びコスト低減技術（将来ロケットへ搭載可能な大型精密部品への金属3D積層技術の確立）
国立大学法人東京大学 (研究代表者：宮本 英昭)	低重力環境・共有実証基盤の整備	SX研究開発拠点（月面開発のための宇宙資源開発拠点（牽引型））
国立大学法人東海国立大学機構 名古屋大学 (研究代表者：笠原 次郎)	デトネーションエンジン・宇宙推進工学革新研究のための共通環境整備	SX研究開発拠点（デトネーションエンジン・宇宙推進工学革新研究拠点形成（牽引型））
国立大学法人京都大学 (研究代表者：野田 進)	超小型・高出力レーザーによる革新的衛星ライダー技術開発の加速のための共通環境の整備	高出力レーザーの宇宙適用による革新的衛星ライダー技術（フォトリソグラフィと固体結晶融合による革新的衛星ライダー技術の開発）
国立大学法人東京大学 (研究代表者：杉山 正和)	次世代宇宙用太陽電池パネルの信頼性評価基盤	SX研究開発拠点（次世代宇宙用太陽光発電デバイスの研究開発拠点（牽引型））

更なる成果創出に向けた取組 ～認知拡大・新たなプレイヤーの掘り起し等のための広報活動～



- 実施機関が取り組む技術開発の認知度向上や、新たな事業機会につなげるための広報活動を積極的に実施。

SPEXAとのコラボ（5/27-29@東京ビッグサイト）

- JAXAと実施機関のパネルディスカッション及び実施機関のピッチを実施したほか、基金の実施機関を会場内地図上で見える化しスタンプラリーを行うことで、国内外からの参加者に対する実施機関の取組の認知度向上を図った。

成果広報のためのHPリニューアル（6月）

- 公募情報中心のサイトから、実施機関の成果を伝えやすい構成に改修。
- 7月には第二期事業のPRシートを一部公表。

実施機関の広報担当者向けセミナー（6/26）

- JAXA宇宙戦略基金事業部とPR TIMES社との協力覚書に基づき、実施機関の広報担当者向けに、成果広報に関するセミナー及び交流会を開催。

基金×CONSEO×金融 衛星データ関係イベント（8月）

- 「産官学金による衛星データ利用エコシステムの共創」のためのイベントを開催し、ステークホルダー間の対話を促進。
- 当日の様子をレポート化。



講演機会依頼対応

- 新産業創造研究機構（6/5・兵庫県）
- 宇推くりあの教えてMaxQ(6/8・オンライン)
- Interop Tokyo（6/11・千葉県）
- SpaceMedia（6/13・東京都）
- 海洋研究開発機構（7/10・神奈川県）
- 静岡銀行（8/21）



SG（ステージゲート）シートの導入

- SG評価・中間評価※に必要な情報（アウトカム目標・アウトプット目標、当該目標からバックキャストして設定されたSG達成目標等）を集約・一覧化する「SGシート」を全事業に順次導入中。今後、技術開発計画書の別添としていく。
- 社会実装に向けて必要となる各分類に対応する目標、達成状況等を確認しやすくすることにより、審査会における議論の焦点を絞り込み議論を効率化することで、厳格なSGを実現することを企図。なお、事業によっては一部分類を活用しないことも可能。

※SG評価と同程度の中間評価を行う場合を指す

大分類	小分類	SG達成目標	SG達成目標の進捗状況報告 (1)事実関係 (2)自己評価	技術開発終了時点目標	JAXA補足コメント	審査委員評価	審査委員の評価補足コメント
開発	技術・製品・サービスの開発	実施機関入力箇所 - SG評価の観点に対応する目標・達成状況・自己評価を記載。 - 一部空欄となる場合も想定（打上げを伴わない場合の「国内打上げ調整」等）。 - 進捗状況報告においては達成状況の事実関係を示すエビデンスを提出しJAXAが事前に確認。			JAXA及び審査会にて活用		
	国内打上げ調整						
マネジメント	経営体制	...					
マーケティング	市場性/収益性・ビジネスモデル/営業・販売	...					
オペレーション	調達・製造・解析工程等	...					
ファイナンス	資金面	...					
リーガル	周波数等の法的対応	...					
	知財マネジメント	...					